平成30年３月１日発行（毎月１日発行）

２０１８．３
（公社）富山県薬剤師会
広報誌

とみやく 富薬

３号
第４０巻
No.344

コブシ　*Magnolia kobus DC.*　（モクレン科　*Magnoliaceae*）

生薬　コブシ

生　薬　シンイ（辛夷）　花の咲く前の早春に蕾を摘み取り、枝柄を切り除き陰干しする。

成　分　リグナン：fargesin, demethoxyaschantin, aschantin, magnolin, biondinin A, B, E、精油：α-pinene, sabinene, limonene, cineol、アルカロイド：salicifoline 等。

効　能　頭痛、歯痛、鼻炎の鎮静、鎮痛薬として辛夷清肺湯や葛根湯加辛夷川芎などの漢方処方に配合される。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター
村上守一氏　写真撮影

○○表紙について○○

第十七改正日本薬局方に収載されている辛夷の基原植物はタムシバ（*M. salicifolia*）、コブシ、*M. biondii*（望春玉蘭＝峡西、甘粛、河南、湖北、四川省に分布する落葉高木）、*M. sprengeri*（武当玉蘭＝峡西、甘粛、河南、湖北、四川省に分布する落葉高木）、又はハクモクレン（*M. denudate*）の５種です。

コブシは北海道、本州、九州、日本以外では韓国の済州島にしか自生ないことから、ほとんど日本固有種と言える樹高15mになる落葉高木です。種小名の*kobus*がそれを証明しています。山地や低地を好んで生育し、開花前の花芽は長卵形で毛に覆われ、まるで毛筆のように見えます。これを乾燥したものが生薬になります。早春に径７－10cmの白色花を枝いっぱいに咲かせます。花被片は９枚で外側の３枚の萼片は小形で線形、内側の６枚の花弁は大形で狭倒卵形、基部は紫紅色を帯びます。花の基部に一枚の若葉を付けます。葉の冬芽が子供の拳（こぶし）に似ていることが語源と言われ、花後に大きく展開します。果実はごつごつした袋のような中に赤い仮種皮に包まれた種子がまとまって入っています。その様子が拳のように見えるところに由来するとも言われています。園芸的価値も高く、庭園樹として植えられるほか、材をまな板、マッチの軸木、家具、玩具、漆器素地、薪炭材に使われています。

コブシの変種キタコブシ（var. *borealis Sarg.*）も辛夷として用いられる落葉高木です。北海道、本州中部･北部の日本海側の丘陵地などに分布し、耐寒性が強く、花は大形で淡紅色を呈します。同じく近縁種のタムシバ（*M. salicifolia*）は本州、四国、九州、特に日本海側の山の斜面や尾根筋に多く自生し、コブシより樹高は低く落葉小高木です。花はほぼコブシと同様で非常に見分けにくいのですが、近づいて観察すると基部に若葉は付かず、３枚の萼片はコブシより大きめです。花が終わって葉が出るとコブシの葉が倒卵形で先端が少し突き出すのに対し、タムシバは披針形で簡単に見分けられます。この葉を噛むと甘い芳香があるところからサトウシバ、カムシバの方言名が名づけられ、タムシバに転訛したと言われています。現在国内で採取されている和辛夷はほとんどがタムシバの蕾です。残雪期には小高木のタムシバの枝は手に届くところにあり、採取が容易なためと思われます。もう一種、国内に自生する種シデコブシ（*M. stellata*）は東海地方の丘陵地に自生する落葉小高木で庭園樹として植えられます。春早く咲く花は白色または淡紅色で、花弁の様子が、神事に使う「四手（玉串や注連縄などにつけてたらす紙）」に似るところから命名されました。

これら３種１亜種が国内に自生し、『新撰字鏡』（898－901）に「辛夷　山蘭（やまあらぎ）、比伎佐久良（ひきさくら）、志太奈加（したなか）」とあり、次いで『本草和名』（918）に「辛夷　和名也末阿良々岐（やまあらぎ）」、『和名抄』（934）に「辛夷　夜末阿良々木（やまあらぎ）、一云古不之波之加美（こぶしはしかみ）」と和名で表わされ、江戸時代に入ると『多識編』（1612）に「辛夷　古布志波志加美（こぶしはしかみ）、今云う古布志（こぶし）」と辛夷にコブシを充てています。中国原産種は『本草和名』の「木蘭」の項の注に「和名毛久良尓（もくらん）」、『和名抄』にも「木蓮　和名毛久良途（もくらん）」と、この頃にはまだ到来していなかったモクレンの名だけが記載されています。渡来したと思われる17世紀後半には植物の説明も詳しくなり、貝原益軒の著書『花譜』（1694）には「辛夷（こぶし）　花は玉蘭（もくれん）に似て蓮のごとく、外紫に、うち白し」とあり、辛夷に「こぶし」のフリガナを付けているのに花色の違う中国産のトウモクレン（*M. liliiflora var. gracilis*）と思われる植物を充て、「玉蘭花（もくれんげ）　紫白二色あり。花大なり。むらさきは、花よからず。しろきをまされりとす」と言い、モクレン（シモクレン*M. liliiflora*）とハクモクレンと考えられる二種が「もくれんげ」の名で記載されています。

（村上守一　記）